

令和元年6月17日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04789

研究課題名(和文)代数群のmodular表現

研究課題名(英文)Modular representations of algebraic groups

研究代表者

兼田 正治 (KANEDA, masaharu)

大阪市立大学・大学院理学研究科・教授

研究者番号：60204575

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：阿部紀之との共同研究で，reductive group G のFrobenius kernel G_1 と G のmaximal torus T について，singular highest weightの G_1T -Verma moduleの構造を解明した。Grassmannian $Gr(2, n)$ と， G が G_2 型で P が極大parabolic部分群の時の G/P の，構造層のFrobenius direct imageについて，我々の予想が成立することを示した。Michel Grosとの共同研究により，Frobenius contractionのDonkinによる新たな特徴付けについて詳述した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記中， G が G_2 型で P のLevi部分群が G のshort simple rootを持つときには， G/P の構造層のFrobenius direct imageは，我々の予想通りKaroubian complete strongly exceptional posetを持つだけでなく，余分な直既約成分を持ち，そのself-extensionは消えないことを発見した。新たなFrobenius contractionの特徴付けにより，Frobenius contractionがinjectivityやgood filtrationの存在を保つことが分かる。

研究成果の概要(英文)：Let G denote a reductive algebraic group split over a field of characteristic $p > 0$. In joint work with Abe noriyuki we determined for $p \gg 0$ the Loewy structure of the G_1T -Verma modules of singular highest weights, G_1 the Frobenius kernel of G and T a maximal torus of G . On the Grassmannian $Gr(2, 5)$ and on G/P with G in type G_2 and P a maximal parabolic subgroup of G we verified for $p \gg 0$ our conjecture that the the Frobenius direct image of the structure sheaf of G/P contains a Karoubian complete strongly exceptional poset of coherent sheaves. In type G_2 we also found that the Frobenius direct image has a nonzero self-extension, implying that the sheaf of rings of small differential operator on G/P has a non-vanishing 1st cohomology. In joint work with Michel Gros we described a new characterization, thanks to Donkin, of the Frobenius contraction, showing in particular that the Frobenius contraction preserves injectivity and the existence of a good filtration.

研究分野：代数学

キーワード：algebraic groups Frobenius morphism representation theory

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

Homogeneous projective variety は reductive group G とその parabolic 部分群を用いて G/P と表される。正標数 p における G/P の構造層の Frobenius direct image は、 G/P が整数環上定義されている為、標数を問わず G/P 上の幾何学について多くの情報を持つことが知られている。例えば、Mehta と Ramanathan [Mehta, V.B. and Ramanathan, A., Frobenius splitting and cohomology vanishing for Schubert varieties, Ann. Math. 122 (1985), 27—40] による Frobenius splitting は、標数に拘わらず Schubert varieties の normality を与え、この方法については、Brion と Kumar による解説本 [Brion, M. and Kumar, S., Frobenius splitting Methods in Geometry and Representation Theory, PM 231, Boston etc. 2005 Birkhauser] まで出版されている。統括者の研究に関しては、先に Ye Jiachen との共同研究 [Kaneda and Ye, J-C, Some observations on Karoubian complete strongly exceptional posets on the projective homogeneous varieties, arXiv:0911.2568] により発見された例では、 G/P の構造層の Frobenius direct image 中に、 G と P の Weyl 群によって parametrize された Karoubian complete strongly exceptional poset が存在する。従って、それら G/P 上に tilting sheaf が構成され、 G/P 上の coherent sheaves の bounded derived category とその tilting sheaf の endomorphism ring 上の有限次元加群の bounded derived category が、Beilinson の lemma により同値になる。

この現象は、その後 quadrics 上でも確認された [Kaneda, Exceptional collections of sheaves on quadrics in positive characteristic, Sao Paulo J. of Math. Sci. 8 (2014), 117-156] が、一般には依然不明であった。

他方、Michel Gros との共同研究で統括者が発見した G の algebra of distributions 上の Frobenius splitting は、 G の表現上に新たな操作 Frobenius contraction を定義する [Gros, M. and Kaneda, Contraction par Frobenius de G -modules, Ann. Inst. Fourier, Grenoble 61, 6 (2011) 2507-2542] し、その量子化版もあった [Gros, M. and Kaneda, Un scindage du morphisme de Frobenius quantique, Ark. Mat. 53, No. 2 (2015), 271-301] が、その性質についての詳細は依然謎であった。

最後に、 G の表現論の中心課題である既約指標の決定に関して、近年 G の affine flag varieties や affine Grassmannian 上の constructible sheaves について進展があり、Geordie Williamson は長年信じられてきた Lusztig 予想に反例を与えた [Williamson, G., Schubert calculus and torsion explosion, J. of AMS 30 (2017), 1023-1046]。則ち、標数 p が G の Coxeter 数以上であれば、 G の既約指標は G の affine Weyl 群の量子化である岩堀-Hecke 環上の Kazhdan-Lusztig 多項式で記述できると言うのが Lusztig の予想であり、 p が十分大きい時にはその予想が成立することが分かっていたが、Coxeter 数以上ではあるがそれ程小さくもない p について Williamson が反例を与え、 G の表現論は新たな局面を迎えていた。

2. 研究の目的

上記、 G/P の構造層の Frobenius direct image について、我々の予想に基づいて継続して調べる。Frobenius contraction について、その性質を明らかにする。Reductive 群 G の既約指標について、新たな展開を学び自身の何らかの寄与を図る。

3. 研究の方法

上記、 G/P の構造層の Frobenius direct image については、従来の我々の方法である G の Frobenius kernel G_1 を用いて G_1P -Verma modules の構造を表現論を用いて調べる。Frobenius contraction については、Gros との共同研究を継続する。 G の既約指標についても、本邦には斯界の専門家が僅少なため、海外の専門家との交流が肝心になる。

4. 研究成果

先ず、 G/P の構造層の Frobenius direct image については、 T を P の maximal torus として、 G_1P -Verma 加群の G_1T 構造を基に予想をたてているのであるが、一般にその highest weight が regular の時は、先に、阿部紀之との共同研究 [Abe, N. and Kaneda, M., Loewy series of parabolically induced G_1T -Verma modules, J. of Institute of Math. Jussieu 14-1 (2015), 185-220] により、上記 Lusztig 予想成立の場合には、よく分かっていた。それを、highest weight が singular の場合にも解明したのが、下記である。Singular highest weight の G_1T -Verma 加群も、regular の時と同様に、rigid であり、その Loewy series は periodic Kazhdan-Lusztig 多項式を用いて記述される。これ結果により、 G_1T -Verma 加群の構造は、Lusztig 予想成立の下では、よく分かったことになる。証明には、Simon Riche の G_1 -block algebras の Koszulity [Riche, S., Koszul duality and modular representations of semisimple Lie algebras, Duke Math. J. 154 (2010), 31-134] を用いる。

以下、 W を G の、 W_P を P の Weyl 群とし、 $W^{\wedge P}$ を W/W_P の最短代表系の全体を、 $\#ell$ で W 上の長さの関数、 $w^{\wedge P}$ でその最長元を表すことにする。 V で 0 を highest weight にもつ P から G_1P へ誘導された G_1P -Verma 加群とすると、 G/P の構造層の Frobenius direct image $F_{*0}\{G/P\}$ は V の層化になっている。 V を G_1T 加群とみたときの Loewy length は $(w^{\wedge P}$ の長さ) + 1 で、 $W^{\wedge P}$ の各元 w について $w \# \bullet \ell et 0 = w \# \rho - \# \rho$ 、 $\# \rho$ は正の roots 全体の和の半分、 $\#$ を highest

weight とする G_1 既約表現 $L(w)$ は, $(w$ の長さ) $+1$ 番目の G_1 -socle series に出てくる。そこでの $L(w)$ の重複度空間 $\text{soc}_w \Lambda^1$ は P 加群の構造を持ち $w^{-1} \bullet (w \bullet 0) \Lambda^1$ を weight にもつ。ここで $(w \bullet 0) \Lambda^1$ は, $w \bullet 0$ の p 進展開の 1-part。今まで我々が知っていた例では, p が十分大きいとき, $(w \bullet 0) \Lambda^1$ によって P 上生成された $\text{soc}_w \Lambda^1$ の subquotient の層化 E_w が, G/P 上の Karoubian complete strongly exceptional poset を成し, 更に, E_x から E_y への成す空間が 0 になるのは, Chevalley-Bruhat order が $x \leq y$ の時に限る。更に, V の G_1 -composition factors はすべて $L(w)$ の形をしておりそれらの重複度空間は層化により split し, $F_* \{G/P\}$ の直和分解を与える。では, Grassmannian $G(2, n)$ において, 我々の予想がここでも成立することを得た。各 E_w の構成には, $w^{-1} \bullet (w \bullet 0) \Lambda^1$ が生成する既約 P 加群を用いる。証明には, Kuznetsov による Koszul 型の complex が計算を容易にする。これらはすべて整数環上定義され, 標数 0 上でも Karoubian complete strongly exceptional poset を成すことが分かるが Kapranov が標数 0 上で構成したもの [Kapranov, M. M., The derived category of coherent sheaves on Grassmannians, *Funct. Anal. i Prilozhen*, 17 (1983), 78-79] とは異なる。

では, G が G_2 型で, P の Levi subgroup が G の short simple root を持つときに, p が 11 以上で, highest weight 0 の G_1 -Verma 加群, 上記 V の Loewy structure の P 構造を決定した。それにより, $F_* \{G/P\}$ の直既約分解が分かり, 予想通りの Karoubian complete strongly exceptional poset を得た。各 E_w は $\text{soc}_w \Lambda^1$ 全体により構成する。それら P 加群のすべてが, 上記所定の highest weight で生成されるわけではなく, その内の 1 つは, 異なる weight により生成される。更には, P の Lie 環を捻ったものを層化したものが, $F_* \{G/P\}$ の直既約因子として現れ, その self-extension が消えない。従って, $F_* \{G/P\}$ 自身の self-extension も消えず $F_* \{G/P\}$ 自身は tilting ではないことを示す。これにより, 当該 G/P 上の small differential operator 環の層の 1st cohomology が消えないことが分かり, 柏原と Lauritzen による $Gr(2, 5)$ における differential operator 環の層の higher cohomology が消えないことの類似を明示的に与える。これにより, P が Borel 部分群で無いときの G_2 型の G について, $F_* \{G/P\}$ の直既約分解は分かった。今後, P が Borel 部分群の時の状況の解明が待たれる。

以下の は, 統括者が当該科研費を使って Mittag-Leffler 研究所を訪れたときに Stephen Donkin に教えて貰った Frobenius contraction の Steinberg module を用いた表示について記述したものである。我々の元の定義は, G の algebra of distributions $\text{Dist}(G)$ 上の Frobenius morphism の splitting を構成するのに使う $\text{Dist}(T_1)$ の idempotent を用いて, G の表現にその idempotent を作用させる射影による。 T_1 は T の Frobenius kernel。新たな特徴付けは, G の表現に 2 回の Steinberg module との tensor product を施した後, その G_1 -invariants を Frobenius untwist したものである。これにより, Frobenius contraction が good filtration や injectivity を保つことが分かる。一方, 既約性は崩れることがある。この結果は, Henning Andersen による, simply connencted semisimple group G について, その表現全体のなす圏が, 拡張された Steinberg block と圏同値であることの証明に繋がった [Andersen, H.H.,

The Steinberg linkage class for a reductive algebraic group, *Ark. Math.* 56 (2018), 229-241]。一方, 上記 $\text{Dist}(G)$ 上の Frobenius

Splitting の存在証明は, G が simply connected semisimple のときに与えたもので一般の reductive group の場合への拡張は自明というわけでは無いことに, 当該科研費を使つての Atlantic Algebra Center での講演を切っ掛けにして, 気付き, それについても Gros との共同研究を継続している。上記の結果は, Steinberg module が存在しないときにも適応出来るようである。

最後に, G の既約指標に関する Lusztig 予想について, 最近, Riche と Williamson によって G が一般線形群 GL_n の場合に新たな進展があった。以下, $p > n$ とする。彼らは, GL_n の principal block に岩堀-Hecke algebra の categorification である Elias-Williamson diagrammatic category が wall-crossing functors によって作用することを示し, それを使つて, G の indecomposable

tilting modules の指標を Kazhdan-Lusztig 多項式に代わる p -Kazhdan-Lusztig 多項式によって与えた [Riche, S. and Williamson, G., Tilting Modules and the p -Canonical Basis, *Asterisque* 397, 2018SMF]。同様の方法によって, 統括者は当該科研費を使つての Max Planck Institute を訪問中に, G_1 についてもその principal block に Elias-Williamson category が作用することを得ており, periodic p -Kazhdan-Lusztig 多項式の導入等, 今後の進展が期待される。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

Gros, M. and Kaneda, M., Contraction par Frobenius et modules de Steinberg, 査読有 *Ark. Mat.* 56 (2018), 319-332

Kaneda, M., On the Frobenius direct image of the structure sheaf of a homogeneous projective variety, 査読有 *J. Alg.* 512 (2018), 160-188

Kaneda, M., Another strongly exceptional collection of coherent sheaves on a Grassmannian, 査読有 J. Algebra 473 (2017) 352-373

Abe, N. and Kaneda, M., The Loewy structure of G_1T -Verma modules of singular highest weights, 査読有 JIM Jussieux, 16 (2017), 887 - 898

〔学会発表〕(計7件)

Kaneda, M., Exceptional sequences in positive characteristic, 大阪市立大学最終講義, 2019/3/15

Kaneda, M., Frobenius contraction, 大阪表現論 seminar, 2019/3/4

Kaneda, M., Splitting of the Frobenius morphism, 富山大学数学教室談話会, 2019/2/19

Kaneda, M., Williamson's construction of torsion in the intersection cohomology of Schubert varieties, Toric Topology 2017 in Osaka/ 大阪市立大学代数 seminar, 2017/12/14

Kaneda, M., Frobenius contraction, a new operation on the rational modules for reductive algebraic groups in positive characteristic, Aug. 28, 2017, Atlantic Algebra Center, Canada

Kaneda, M., Frobenius contraction, as Donkin puts it, Aug. 16, 2016, Bernoulli Center EPFL, Confederation Helvetique

Kaneda, M., Other aspects of Frobenius splitting, seminar in the program Representation Theory, May 13, 2015, Mittag-Leffler Institute, Djursholm, Sweden

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

(2) 研究協力者

研究協力者氏名: 谷崎 俊之

ローマ字氏名: (TANISAKI TOSHIYUKI)

研究協力者氏名: 柳田 伸顕

ローマ字氏名: (YAGITA NOBUAKI)

研究協力者氏名: 手塚 康誠

ローマ字氏名: (TEZUKA MICHISHIGE)

研究協力者氏名：古澤 昌秋
ローマ字氏名：(FURUSAWA MASA AKI)

研究協力者氏名：木村 嘉之
ローマ字氏名：(KIMURA YOSHIYUKI)

研究協力者氏名：河田 成人
ローマ字氏名：(KAWATA SHIGETO)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。